

平成25年第2回
利根町議会定例会会議録 第4号

平成25年6月7日 午後1時開議

1. 出席議員

1番	新井邦弘君	8番	高橋一男君
2番	花嶋美清雄君	9番	今井利和君
3番	船川京子君	10番	五十嵐辰雄君
5番	守谷貞明君	11番	若泉昌寿君
6番	坂本啓次君	12番	井原正光君
7番	白旗修君		

1. 欠席議員

なし

1. 説明のため出席した者の氏名

町長	遠山務君
総務課長	師岡昌巳君
企画財政課長	秋山幸男君
まちづくり推進課長	高野光司君
税務課長	坂本隆雄君
住民課長	井原有一君
福祉課長	石塚稔君
保健福祉センター所長	岩戸友広君
環境対策課長	蓮沼均君
保険年金課長兼国保診療所事務長	鬼澤俊一君
経済課長	矢口功君
都市建設課長	飯塚正夫君
会計課長	菅田哲夫君
教育長	伊藤孝生君
学校教育課長	福田茂君
生涯学習課長	石井博美君
教育委員会委員長	小泉正和君

1. 職務のため出席した者の氏名

議 会 事 務 局 長	酒 井 賢 治
書	雑 賀 正 幸
書	飯 田 江 理 子

1. 議事日程

議 事 日 程 第 4 号

平成25年6月7日（金曜日）

午後1時開議

日程第1 一般質問

日程第2 休会の件

1. 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

日程第2 休会の件

午後1時00分開議

○議長（井原正光君） こんにちは。

ただいまの出席議員は11名です。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

これから議事日程に入ります。

○議長（井原正光君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き通告順に質問を許します。

7番通告者、5番守谷貞明君。

〔5番守谷貞明君登壇〕

○5番（守谷貞明君） こんにちは。きょうは、一般質問は私一人だけなので、ゆっくりと落ち着いてと思っているのですが、どうやら皆さん、早く終わるよう思っている方もいるかもわからないので、できるだけ手際よく思っております。よろしくお願ひいたします。

きょう私は、教育委員会の活動及び教育問題、これは特に学力の向上に的を絞ったテーマについてご質問いたします。

まず最初に、教育委員会について、おおむね活動について質問をいたします。

国家百年の計は教育にありと言われていています。事実、新渡戸稲造、福沢諭吉、大隈重信、新島 襄等、教育に生涯をかけた先駆者たちのおかげで、アジアで最も早く近代化をなし遂げ、そして世界でもトップクラスの技術大国となった日本、今日の繁栄はまさに教育にあると思います。教育とは国家の礎をなすほど大変重要な存在です。その教育の実施運営に関するすべての権限を持っているのが教育委員会です。

教育基本法とは別に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律というものがあります。ちょっと長くてわかりにくい名称ですが、わかりやすく言えば、教育委員会法とでも言うのでしょうか。その中で特に重要なのが第23条です。その23条（教育委員会の職務権限）には、3、教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関する事。5、学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関する事。6、教科書その他の教材の取扱に関する事。7、校舎その他施設及び教具その他の設備の整備に関する事。8、校長、教員その他の教育関係者の研修に関する事。など等が決められています。これ以外にも10数カ条がまだありますが、主なものを列挙しました。

ここで私がピックアップしたのは大変重要な項目で、あらゆる権限が教育委員会に集中していることを示しています。ですから、学力の高い低いはもちろん、学校の雰囲気やスクールカラーなど、学校のすべてが大きな影響を受けます。現場の校長先生や教師たちは、このような状況の中で日夜奮闘され、子供たちのために頑張っています。そこでお聞きします。

利根町教育委員会として、小中学校の子供たちの学力向上を図るためにどのような指示、提案を出されてきましたか。

今回は学力向上にテーマを絞ってお聞きします。過去3年間の主なもの、重要な提言等を小学校、中学校と分けてお聞かせください。教育委員長に答弁を求めます。

○議長（井原正光君） 守谷貞明君の質問に対する答弁を求めます。

教育委員長小泉正和君。

〔教育委員会委員長小泉正和君登壇〕

○教育委員会委員長（小泉正和君） ご指名いただきました教育委員長の小泉でございます。何分ふなれなもので、つたない答弁になりますが、その点はお許し願いたいと思います。

それでは、守谷議員のご質問にお答えします。

小中学校の子供たちの学力向上を図るためにどのような指示、提案がなされたかについてでございますが、教育委員会では、利根町学校教育指導方針を策定し、毎年度、改定しております。

この中で、学力向上に向けては、確かな学力を身につけさせるための教育の推進として、年度ごとに重点項目を設定し、教育課程の編成や学習指導の工夫改善を指導しているところ

ろでございます。

ご質問では、小学校と中学校を分けてということでございますが、学校教育指導方針は、小中学校共通の指導方針として策定しておりますので、その点につきましてはご了承いただきたいと存じます。

まず、平成23年度では学力向上のための重点項目として10項目を設定しております。

1点目は基礎的・基本的知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をはぐくむ授業の工夫。2点目は家庭学習の習慣化を図る。3点目は集中力を養うドリルの実施。4点目は読書力の養成。5点目は学力診断のためのテストの積極的な活用。6点目は小中連携学力向上推進プロジェクトの実施。7点目は教育論文を通じた研究意欲の高揚。8点目は理数教育の充実。9点目は全国学力学習状況調査への参加。10点目は理科教育に対する教科担任制の導入。以上10項目でございます。

また、これらの各項目に応じた具体的な取り組み方針も示しておりますが、答弁が長くなりますので割愛させていただきます。

次に、平成24年度と25年度は同じ重点項目の設定で7項目を設定しております。

まず、1点目は基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をはぐくむ授業の工夫。2点目は個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善。3点目は全国学力・学習状況調査の活用。4点目は県学力診断のためのテストの積極的な活用。5点目は小中連携学力向上推進プロジェクトの実施。6点目は教育研究を通じた研究意欲の向上。7点目は理数教育の充実。以上7項目を設定し、学力向上のための指針としております。

以上で答弁を終わらせていただきます。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 今、教育委員長の答弁で、随分いっぱい項目を毎年出しているんだなと思ひまして、びっくりしたのですね。僕は多くても基本的なテーマって五つぐらいを重点的に取り上げるのかなと思ったら、平成23年度では10項目ですね。これを全部きちっとやるのは大変ですね。それから、24年、25年については7項目、23年度とそれ以降のものとの重複しているものが幾つかありますね。それは当然ですよ。引き続き基本的な学力の向上ということは必要ですから。

私はこれを見ていて、これで本当に学力が上がるのかしらと非常に疑問に思うのですね。なぜかというと、ここには多分網羅されていると答弁されると思いますが、教え方、同じ国語でも算数でも何でも、教え方によって生徒の理解力ががらっと変わってしまうのですよ。だから、そこがどにあるのかなと思って。

子供たちというのは非常に個性豊かで対応性がありますから、いろいろな思考をしています。それをある一つのパターンにはめ込んで教えるというのは、できるだけ避けた方がいいので、だから、これが24年、25年の中には個に応じた教え方というところに含まれてくるのだらうと思うのですけれども、こういうところを、できる子はもっとどんどん伸ば

す、できない子は追いつき追い越せるようにどんどん上げてやる。こういうところに力点を置いた教え方をぜひ、総合的に網羅的にやるのではなくて、ポイントを絞って効率よくやっていただきたい。

なぜかという、先生の数は限られているわけですから、そのところをもう一度、どんなふうなお考えをしているかお答えください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 守谷議員のご指摘、ごもっともだと思います。

やはり重点的に個に応じた指導ということで、特に教え方、そういったものも行っていくのも大変必要だなと私も感じております。

一応全体的な、あるいは網羅して抜けのないようにということも考えておりますので、方針としては一応載せていただいております。ただ考え方としては、守谷議員の考えのとおりだと思います。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） ぜひそういう方向で続けていただきたいと思います。

それから、学力向上を目指すためには、現状がどういう状況なのかを知る必要があるのですね。我々父兄もそうですか、保護者、住民、議員も、それから、ここにいらっしゃる皆さんほとんどが知らないと思いますが、利根町の小中学校は一体どのぐらいのポジションにいるのだろう。非常にこれ疑心暗鬼というか、いい方にいてくれればいいけれども、どの辺なのだろうと。

そこで、いつも全国学力テストの結果について、そういう順位は競争につながるから、格差につながるから発表しないんだと、それはそれでいいですよ。ただ、できる範囲で教えていただきたいなと思っているのは、なぜか。私たちは今どの辺にいるのだろうと知りたがるのは、人間として当たり前なのです。特に子を持つ親は当たり前だと思うのです。

そこでお伺いします。A、B、C、Dと分けます。Aはトップクラス、Bは上位グループ、Cは平均点と上位グループの間、Dは平均点とします。さて、利根町は小中学校、どのあたりにいるのか、もし答弁できれば答弁していただきたい。

なぜかというのは、これから議論するためには、現状を把握して、それにどう対応するかということのためには非常に重要な情報ですから、ぜひその程度は開示していただけるのではないかと期待しておりますので、ぜひご答弁いただきたい。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 全国学力学習状況調査は、指導の改善に努めることがねらいとなっております。

確かに守谷議員ご指摘のとおり、学力によっては、単にテストの平均正答率だけが学力向上になっているわけではございません。確かに児童生徒のふだんの生活状況等の質問調査結果も大切だなとっております。

私は、利根町におけるある学級を分析して、それを町のレベルアップに考えようという
ことで、この程度だったらここで公表しても結構だと思いますけれども、ただこれはいろ
いろな地域の方々、それから、教職員にとっても大変参考になると思うのですが、やはり
総合的に考えますと大変時間がかかりますから、15分ぐらいかかるのですけれども、よろ
しいでしょうか、それとも、いいですか。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） そんな細かくデータを求めているのではなくて、さっき言ったよ
うにアバウト、ざっくりしたところでトップグループ、上位、平均からちょっと上、平均
と、A B C Dのどの部類に属しているかぐらいはお答えいただけるのではないかと
思って質問したので、よかったですぜひお答えいただきたい。

だから、細かいことは一切要りません。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） おかげさまで例年全国の平均よりは、大体同じか、それを上回
っているという状況でございます。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 全国の平均よりも上、ということは、トップクラス、上位、その
ちょっと上のCかDのどちらかに属しているという理解でよろしいでしょうか。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） それで結構だと思います。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） わかりました。

それでは、平均点よりもちょっと上ということ的前提として、ではどうしたら効果的な
学力向上が果たせるかということでご質問したいのですが、まず、国の教育審議会の専門
家の多くが、学力向上に一番効果的なのは教師の質の向上を図ることが大切だ、だが同時
に教師が余りにも忙しく、自己研さんや授業内容の見直しや創意工夫に取り組む時間が持
てないという悩みを抱えていると。この問題は切り離して議論すべきではないと、教師の
質の向上と教師の忙しさ、これはセットで考えるという意見を出しております。

私も全く同感で、小学校で教師が下校時に見守り、送り届け、生活指導、子供たちや保
護者への連絡帳やメールの作成、さらには公務等があります。中学校では生徒指導、部活
動、進路相談、公務等、そのほかにもあると思うのですが、主なものを上げつらうとその
ぐらいあります。ですから、教師が余りにも多くの仕事を背負い込んでいて、生徒とじっ
くり向き合う時間がないんだということが、中教審でもよく話題になっています。

これを解決するには、教師の増員を図れば一番簡単なのですが、教育予算が毎年削られ
ている現状で、なかなかそうもいかないのですね。国も地方も財政難ですから、なかなか
教師の数をふやしてくれないのです。では、現有勢力の中でどう対応するかというところ

に知恵を絞る必要があると思うのですが、そこで私が二つ提案したいと思っているのです。

1 番目は、教師でなくてもこなせる学校業務があるとすれば、それはパートタイマー、事務職ですね、そういう方々が代替できるのであれば、その方々にやってもらうということも考えてみたらいかがでしょうか。

2 番目、きのうの花嶋議員の質問の中にも出てきましたが、小学生の送り迎えの問題ですね。これは大きな団地、私も過去4年間ほど送り迎えをずっと毎日やっていたのでよくわかっていますが、大きな団地は、みんな校門近くで生徒の受け渡しが行われているんですよ。そうでないところは、教師が最後まで送り届けるという話もあって、ぜひ子供をひとりぼっちで家に帰さないでくれというのが、きのうの花嶋議員のお願いであったのですが、私は、それもすごく大事だと思うのですが、それは教師の仕事量がふえることになってしまうのです。だから、できたら地域でよく話し合いをしていただいて、保護者の方々と定期的な会合を持ち、教師の現状はこうだと、より高い教育、学力向上を目指して教師には本職の方に力を入れていただきたいので、大変皆さん申しわけないんだけど、地域の力をおかりできませんかというような定期的な話し合いを、ぜひ持つべきだと思う。持っているとは思っているのですが、その辺について教育委員長、お答えください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） ボランティアの活用ということになるのかなと思いますけれども、確かに守谷議員の言うことはごもっともで、できるだけ地域の方がそういった専門的に持っている知識を生かして、実際に学校の方で活用しておりまして大変ありがたく思っております。

例えば、先ほど話が合った登下校とか、また総合的な学習の時間における授業への参加、そういったものも現在取り組んで、本当に頭のさがる思いです。ありがたいと思っております。

また、最近、ボリビアの方から転校してきた子供がおります。たしかスペイン語ということで大変苦慮しておりまして、広報紙、それから、インターネット等で応募をかけましたところ、実際ボリビアに行って経験した方、若い青年なのですけれども、来ていただけるということで、本当にありがたいなと思っております。これも無料で実施していただけるということで大変ありがたく思っております。

そのほか、ボランティアの方々には本当にありがたいと思っております。いろいろな活動しております。

○議長（井原正光君） 5 番守谷貞明君。

○5 番（守谷貞明君） 私は3月の定例議会でも、元教師のOBの方々や教師の免許を持っていて今は暇がある、無職ですとか、いろいろな方がこの町におられると思う。そういう方々を公募して、非常勤講師もしくは、後からまた議論しようと思っているのですが、特別編制学級をつくったりする、これは後で話しますけれども、そういうときにご協力を

していただく。

そういう教師OBの方々や元教師で、今はまだ若くても仕事がないという人も何人かおられると聞いていますので、そういう方々を公募して非常勤講師として、これ全く無料というわけにはいかないと思うので多少の人件費は出ると思うのですが、ただ正規職員に比べれば3分の1ぐらいで済んでしまうと思うので、予算的には、これは非常にやる気があればできる対策なのです。お金はそんなにかからない。

ですからその辺について、やる気があるのか、ないのか、お聞かせください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 前回の議会は出られなかったのですけれども、室長の方からその辺は伺っております、実際に少人数指導ということ、教職員経験者の活用ということですが、ある程度予算的な裏づけがあれば、それはできるとは思いますけれども、全くのボランティアということではちょっと無理があるのかなと感じております。

守谷議員ご存じのように、教育基本法にもありますように、何条でしたか、教員というところがありまして、その教員のところにきちんとした待遇の適正をとりたいという項目もありまして、そのようなこともありましてある程度の報酬のようなものはきちんと加えて採用したいということです。

守谷議員が今ご指摘のとおり、ことしですけれども、実際に数学とか理科の教師が大変不足しているのです。それで、ことしも職員の採用に当たってはハローワークで求人を探したりしています。

また、そういった方々は教育事務所とか当然学校教育課の方にも履歴書を出してございまして、そのような者を探し出して、やっとな理科の2人の教員、1人は千葉県から、1人は小美玉市の方から、本当にハローワークですから全国から来ますので、そういった形で採用できまして、私ども当然面接も入れましたけれども、そのような形もありますので、ぜひ希望される方がおりましたら履歴書等を提出いただいて、必要に応じて面接をしたいと考えております。

ただ、現在は免許の関係も大変難しくございまして、免許の更新制度というのがございまして、10年に一度は更新しなければならないということもありまして、そういったものも含めて大変難しい面もあるのですが、検討していきたいと思っております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 今、教育長がいみじくもそういう専門性の高い教科について、教師が不足して困っていたんだという話をされましたね。小学校でも5年生、6年生になると専門性がかなり高くなります。だから教師の質、教え方、教師の理解度、これによって全く違うのですね。

そこで始めたのが、これ大分県なのです。ちょっと切り抜いたのですけれども、大分県では教科担任制を小学校5、6年生から始めているのです。なぜか、今言ったことなので

す。専門性が高くなってきたときに、今の小学校では1人の先生が全教科を見ているのですね。そうすると、得手、不得手、得意分野、そうでない分野があるのですね。そういうときに自然科学系、理数系、私だめよという人が必ずいるのです。そのかわり、そのほかの自然科学系でない社会科学系は非常にすぐれているとか、そういうのがあるので、ここでは教科担任制をことしの4月から導入しています。

課目は国語、算数、社会、理科、これが大分県内の五つの市町村で試験的に今始められたばかりなんです。

だから、これがいいか悪いかというのは、多少時間がかかると思うのですけれども、確実にここで言えるのは、先生の質が高くなるから、できる子はどんどんできるようになるのですね。そうすると、そうでない子はどうかのというと、多分そっちの方もが一んと質が上がるんじゃないか、教え方が上手になれば、みんなの理解力が上がると、こういう話なのです。

だから、ぜひ利根町でも、今、専門性を持っている先生が不足していて困っているんだという話があった、その裏腹なんだけれども、担任制を視野に入れた教師の育成をしていただきたいと思うのですけれども、簡単に答弁してください。したいか、しないか、簡単に。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 教科担任制については、昨年度から、特に理科で現在進めております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 理科はわかっているんですよ、だからそうではなくて、ほかについてもそういう考えはあるかどうか。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 教育課程が、時間数が許すならば、できれば数学、主要教科等で入れられればいいなと私も考えております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 教科担任制のもう一つの大きなメリットというのは、中一ギャップというのがあって、小学校から中学校に入ったときに非常に大きな、教育内容ががらっと変わって難しくなりますから、子供によっては何か行きたくないやという中一ギャップというのがあるのです。これが薄まるという非常に大きなメリットがあります。

中学校ではみんな教科担任制ですから、理科の先生はあの教室であそこか、社会はこうと、全部わかっています。ですから、それを小学校の5、6年で体験していく、なれていくということは非常に大事なことだと思います。

そういうことで教育には非常に手間暇かかるのですが、今回私がちょっと気になっていることは、教育時間が昔に比べてすごく減ってしまっているのです。詰め込み教育と言

われて批判されたころの日本の年間の教育時間は、学校によって多少のでこぼこはありますけれども、年間1,400時間から1,300時間ぐらいですか、それが今は約1,000時間前後で400時間ぐらい平均して減っているのです。

利根町ではどのぐらい減ったか、具体的にはわかりません。しかし、その結果、ゆとり教育が始まって教育時間がどんと減って、400時間ぐらい年間減ってしまったのです。子供たちの学力の低下につながりまして、世界のトップクラスから見る見るうちに落下しまして、日本はまあまあ上位というレベルまで落ちてしまったのですね。それで文科省や教育関係者が非常に危惧して懸念しているのです。学力低下、どうしたらいいのだろうと。

これは全国の親にもそういう気持ちが非常に強くなっていまして、朝日新聞とベネッセ教育研究開発センター、このベネッセというのは教育関係の図書を数多く出している大企業というか出版大手ですが、全国の公立中学校の保護者、32都県、53校、6,831人の意識調査をしたのですね。

ここでテーマは何か、週6日制、これは教える方ですね。教える日を週6日、いわゆる昔に復活しよう。それから、もう一つは隔週6日制、月に2回土曜日やる、第1と第3みたいな、それは連続でもいいのですが、これについての賛否を問うたのです。

そうしましたところ、完全学校6日制に23.4%が賛成し、隔週6日制、飛び飛びの土曜日に教えるのが57.3%、合わせて80.7%の全国の父兄が賛成しているのです。学力低下を心配しているのですね。だったら土曜日、学校をやってよということなんですね。

そしてこの父兄に、同時に、現在教育格差がどんどん広がっている。公立と私立でも大きな開きがある。こういうことをどう思うか。格差があるのは当たり前だ、やむを得ないという答えが過半数を超しているのですね。

わかりやすく言うと、教育にはできる子、できない子がいてもしようがないと。そういう答えが返ってきて、朝日新聞の記者もびっくりしていたようですけれども、つまり、どうということかという、これは保護者の多くが学力低下を憂いているのですね。心配しているのです。このままでいいんだろうか、うちの子は大丈夫かと。それで多くの父兄の方々が名門の私立の中学校を、私立でも多くの中学校が土曜日も学校をやっているのです。完全学校6日制をやっている私立中学校はいっぱいあります。だから、私立中学校に負けなように公立もそれをやれとは僕は言いません。私立中学校とけんかする必要はないと思う。競争する必要はないと思う。しかし、学力アップをしなければいけない。

そこで、品川区で小中学校、去年から隔週2回、だから隔週土曜日の授業を始めたのです。たまたま僕はこの品川区のデータを調べて、きのうの夕方、パソコンをやりながらテレビをつけていたのです。そうしましたら、日テレを見た人がいるかもしれません。見た人、いますか。夕方の日本テレビの「news every」というのがあるのですね。その中でこの品川区の隔週6日制の取材をしていました。

子供たちが生き生きと質問をしたりいろいろやって、そういう映像が出てきて、その中

でインタビューで子供たちが、学校へ来て楽しいよと、土曜日あった方がいいよという意見が約6割、それから、父兄は圧倒的多数80%が賛成、教師はこれまたちょっと複雑なのですね。ゆとりをもって授業に臨めるから学校週6日の方がいいよという先生と、土曜日半日の出勤とはいえ、結局帰ると4時、5時になると、フルタイムと似たようなものだと、だからいろいろ忙しくて代休もとれないし、結局、休みがとれないからつらいと。私にも家族がいるから家族団らんの時間が減ってしまうから嫌だと。昔の教師からだったら、絶対こんな答えは返ってこなかったのだらうと思うのですが、最近の若い人たちは、そこはきちっと職業としての教師というのは割り切っているのでしょうか。そういう答えがありました。

これを実施した品川区の教育長の若月秀夫さん、その人の談話、それから、インタビューがあったのですが、振替休日をとれない教師もいるのは大変教師の負担となっていて申しわけないとは思いますが、今実施している月2回の土曜日、これが現在できるぎりぎりの限界ではないか。文科省、国がお金も人も出さないでやろうとすれば、現行の中では週2回がぎりぎりだよという話をしていました。

これをやることによって、子供たちは遊び時間が減っちゃった、それから、土曜日団らんができなくなったとか、いろいろな意味の反対意見もあったのですが、圧倒的多数は賛成だと見ていました。そしてそのとおりでした。

そこで問題なのは、利根町もこういったことを考える、検討するということについて、土曜日隔週、だから月2回やるようなことを検討されているか、いないか、お答えください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 学習指導要領の授業数の数が最初に出ましたけれども、確かに私が教員になったころの43年に改訂がありましたけれども、そのときの授業時数が、小学校が5,821時間、中学校で3,535時間でした。その後、いろいろな変遷がありまして、学校週5日制、国際的ないろいろな動き等もありまして、かなりゆとり教育で減ってきたのですが、現在、平成14年実施という新学習指導要領に基づきまして授業時数が多少ふえたのですが、それでも小学校が5,367時間、中学校の3年間の総授業が2,940時間、それでも昔から比べれば少ないということです。それは存じていると思います。

ただ、学習指導要領の中で教育課程の授業時数というのは決められております。ですから、その決められたものだけは守らなくてはならないのですけれども、今、守谷議員が申し上げたように、週6日とることによって多少教育課程の中でもゆとりができて、いろいろなこともできるのかなということは考えております。

最近、県の方でもそういった調査を求めてまいったということは、現在そういう方向にしているのかなと、今後そういった方向もちょっと考えていかななくてはならないかなと思っております。

ただ、現在は、申しわけない、まだそこまで検討の段階には入っておりません。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 教育長の答弁で、現時点で土曜日に学校を開くのを今すぐやるのは無理かもしれないから、将来的な問題としてとらえていくと。ぜひ導入していただきたいと私は思っております。それも、できるだけ早く。私のお願いです。

学力を向上するには、僕は具体的な目標を掲げることが非常に大事だと思っているのですね。現在、利根町の小中学校では、さっき学力向上のための提案、一番最初に教育委員長にお伺いしました。幾つかありました。そういうものではなくて、具体的に、例えば茨城県の中でトップフィフティ、50位以内に入るんだとか何か、そういう目標設定をされたことはありますか。それから、しようと思っておりますか。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 全国でどのぐらいの位置にあるとか、そういったことは確かに一般の方々は大変興味があることだと思います。私もある学級を見て、学力の面と、それから、それに伴う生活状況とか、そういったものを含めた私なりの考え方を私自身がまとめたものがありまして、それは全国一を求めています。

ただ、それは説明には15分ぐらいかかりますので、それはよろしいかと思うのですが、ともかく気持ちとしてはそういう方向で、私の考えていることを、できれば一般の方にも、また教育職員にも、そういった総合的なもので全国学力学習状況調査を詳しく検討した上での考察の一端をですね、それを実際に生かしていきたいなどは考えております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 簡単に言えば、具体的な数値目標は持っていないということですよ。わかりました。

私は、そうではなくて、例えば10年で、茨城県内で小中学校ともにトップテン入りを目指すんだという大きな旗、ゴール目標、これは希望でもいい、夢でもいい、高ければ高いほどいいんです。掲げるんです。そのために最初の5年何をすべきか。そういうロードマップをつくる。それを教師にも父兄にも保護者にも、それから、子供たちにも、みんなに公表するのです。私たちはそこを目指すんだと、そのために今からこういうことをやりますと、そういうことを具体的に示すのがあなたの仕事なんです、教育長、あなたは教育について全権を持っているんです。

僕は非常に大事だと思っているのは、平均点を10点から15点とんと上げるのは簡単なのですよ。ご存じですか、わかったら答えてみてください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） ですから、先ほどから言っているように、きちんとした数値目標を持った上での、そしてそれに生活状況とかそういったものを考えての考察を私自身は持っておるということです。それには15分かかりますので、もしよければぜひ聞いていた

だきたい。

そういうことをございます。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 僕が唐突にご質問したのでちょっと困惑したのかなと思うのですが、平均点を10点から15点上げるのは簡単なのですよ。お教えしましょう。

それは到達度の遅い子、習熟度の遅い子たち、学年別に一つ、5年なら5年、6年なら6年のクラスを、通常の授業が終わった後につくるんです。そこに集中するのです。全部5年生、6年生の中で習熟度の遅い子を集めてしまうのです。それぞれの学年で1クラスつくるのですね。いなければ一番いいんだけど、その子たちを集中的に、マン・ツー・マンに近いような教え方で徹底的にブラッシュアップ、教えるのです。そうすると、あっという間にできるのです。

その子たちが、今まで足かせになって引っ張っていた、この部分がなくなってしまう。平均点から上にどんと上がるのです。それは大体10点や15点、学校によって多少の差はあるんだけど、それから、習熟度の低い子供たちの数にもよるんだけど、それによってそれなりにどかんと上がってしまうのですよ。ということは、茨城県の平均点から10点から15点上にすんと入るのですよ。具体的に言うとそういうことなのです。

だから私がさっきから言っているのは、非常に大事なことは、集中してある問題にフォーカスする、焦点を当てて、そこに集中的に取り組む、そういうやり方をしていただきたい。

そのために必要なのは人手なのです。その人手を集めるためには、公募して非常勤講師を、そして、ここで私が言ったように、そういう子供たちをなくす。そういう子がいるということは、日本の義務教育にとって大変不幸なことなのです。なぜ不幸か、知らないままどんどん上に上がってしまうのですよ。4年生の授業についていけない、この部分がわからない、わからないまま5年生になる。5年でまたある、6年生で出てしまう、最後に中学校を知らないまま卒業してしまうのです。こういうのが日本の業務教育の最大の弊害なのです。

教育関係者ですからおわかりですよ。私はずっとそれを常々思っていました。知らないまま、だから一時期やりましたね、大学に入っても英語がわからない人がいっぱいいるのですよ。しゃべれるのはほとんどいない。これが日本の大学の現状。だけど、中学校、高校とみんな卒業させてしまうのです。

そういうことが起こらないようにするために大事なことは、さっき言ったように、その子たちを集めて集中的に、マン・ツー・マンまではいかなくてもいいけれども、人を、非常勤講師の方々に協力していただいて徹底的に教える。そうすると、不思議なことでみんなわかるようになってしまうのです。そうすると、みんな目の色が変わるのです。

学問、知る喜びというのは人の人生を大きく開かせるのです。子供たちも喜びを覚え

るのです、知る喜びを。こういう教育をぜひしていただきたい。

そのためにはボトムアップする。そういう習熟度の低い、おくらしている子供たちを集めて、その子供たちが悪いのではないのです。いろいろな事情があってそうなった。磨けば玉になる。その努力をしていただきたい。子供たちも頑張るのです。ですから、そういうボトムアップのために非常勤講師の方に何人かご協力いただき、教師も本気で取り組んでいただきたい。そういうお考えはありますか。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 確かに下位の児童生徒を引き上げること、これは全体の学力向上には大変有効だとは思っています。そういった習熟度別編成とか、ティームティーチングとか、少人数指導、いろいろな方法がありますが、そういう今守谷議員が言われたような方法を取り入れながら、今後とも進めていきたいと思っております。

私の話したい15分かかるという考察の中にも、そのようなことは含まれておりますので、何か機会があったときには、ぜひ聞いていただきたいなど、よろしく申し上げます。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） さすが伊藤教育長、そういうことも十分考えておられたというご返答なのですが、ならば、できるだけ早く実行していただきたいのです。

習熟度のおくらしている子、そういう子供たちも好き好んでそうなっているのではないのですよ、いろいろな事情がある、そこには先生の好き嫌いもあるかもしれない、教え方の問題もある、いろいろなことがあるでしょう。家庭環境もある。だけど、そんなことはどうでもいいんですよ。彼ら、彼女たちに知る、学ぶ喜びを教えるのは、このボトムアップのための、みんなそこに集めて優しく、わかりやすく、褒めながら教えていくのです。そうすると覚えてしまうのです、わかってくるんです。ぜひ実行していただきたい。一日も早く私はそれを実行していただきたいと思っております。

そうすると、茨城県の中で私がさっき言ったように、トップテンも夢ではないのですよ。

余り時間がないので余りぐだぐだ言うつもりはないのですが、遠山町長は県下一の子育て環境を目指して第2子50万円、第3子以降100万円、それから、これは私がずっと前から言っていたのは去年から実施してくれました。中学3年生まで医療費無料、この医療費無料をやったのは長野県の南条村が日本で第1号で、それをやった途端に、村の人口3,500人が4,500人になったというので1,000人ふえてしまった。子育て世代が周りからどんと行ったのです。有名になって、新聞、テレビがどんどん取材に行っていて、それで僕はよく覚えているのです。いいことをやれば人が来るのです。

そこで、今、遠山町長は県下一の子育て支援、環境づくりをやろうとしている。それと車の両輪、相まって、教育によるまちづくりをぜひやっていただきたいと思っているのです。

さっきも冒頭で言いました。国家百年の計は教育にあり、日本の近代化、これだけ工業

水準が高くなった、すべて明治時代以降の近代教育なのです。この近代教育がすべてのベースになって世界でトップクラスの技術大国になっているわけです。それが花開いているわけ。教育こそが一番大事なんです。人を育てるといことは国づくりなのです。人づくりや国づくりにつながるのです。だから、利根町が大ぶろしきとだれに笑われても構いませんよ、指を指さされても構わない、トップテンを目指すんだと、ぴちっと目標を掲げて、そのために最初の5年間で15位以内、20位以内に入る、そのためにはこういうことをやる、そういう具体的なロードマップをつくっていただきたい。タイムテーブル、その中には何をどういう教え方で、人、もの、金はどう使う、教育のテーマはこういうことに絞ってやる、そういうことを織り込んだタイムテーブルをつくっていただきたい。

それは教育委員会の仕事だと思っているのですが、教育委員長はどう思いますか。

○議長（井原正光君） 教育委員会委員長小泉正和君。

○教育委員会委員長（小泉正和君） 何と言うんですか、私自身の経験から言いますと、私も小学校に入ったころは落ちこぼれでした。戦後間もなく学校へ上がりましたので、落ちこぼれで自分の名前もやっと読めるくらいで学校へ入りました。あるとき父親に褒められまして何となくやる気になって、ですから、褒められるということが非常に大切ではないかと思っているのです。

だれでもいいです。先生でもいいですから、何と言うんですか、スウェーデンあたりの教育でも、できる子はおぼっとくとかいうか、そのままにしておいて、いわゆる落ちこぼれ的な子供の面倒を見るという教育方針をとっていい成績を上げているという、ネットあたりの掲示が出ておりますので、非常に議員のおっしゃるように、そういう対策というのは重要ではないかと思っております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） ちょっと教育委員長のお答えが、私の質問と答えが違うので、具体的な目標を掲げて、その実現のためにタイムテーブルやロードマップやいろいろなものをつくって、そこにわかりやすいテーマできちんと網羅したロードマップをつくって、そういうことをやりますかと、そういう質問をしたのです。

ですからお答え、いいです、時間もないのでもういいです。

僕は何回もずっとこの町の教育、子供たちを見ていて思うのは、とても子供たちが明るくて素直でいい子なんです。元気よくあいさつするし、僕も送り迎えをやっていてつくづくそう思ったことが何回もあります。この子たちにもっともっといい教育環境を与えて学力を上げて、利根町は教育の町でいい子がどんどん育っていくという評判ができれば、この町いいのにな、教育によるまちづくり、町の活性化ができるんですよ。

さっき遠山町長が言ったように、県下一の子育て支援、ほぼ実現しました。中学生まで医療費無料、さっき言いましたね、無料になりました。大変いいことをやりました。それをもっと輝かせるためには、教育なのです。教育で子供たちが茨城県、くだいですよ、僕

は何回も言います、トップテンに入るぐらいの実力を身につける、そういう学校教育をぜひやっていただきたい。そのためには中途半端なことは絶対だめです。本気になって取り組んでいただきたい。

さっき言いました。だから、きょう言ったのは教師の質の向上、そのためには教師の時間をもう少し緩和してあげたらどうかと。それから、人手不足だったら非常勤講師を雇ったらどうですか。授業を教える時間が足りなかったら、土曜日やったらどうですか。それから平均点を上げるためにはボトムアップ、習熟度の低い子たちを集中して、あるクラスに集めて、そこで集中的にブラッシュアップしてボトムアップする、こういうことをできること、これはお金はかからないのです。余りかからないのです。やる気さえあればできることなのです。

ぜひあらゆる手段をうまく組み合わせて、子供たちの学力アップにつなげる方策を実行していただきたいのです。その辺について、教育長、細かいこと、データなどはどうでもいいですから、どうお考えかお聞かせください。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 今、守谷議員が言われたこと、ごもっともだと思います。

そのようなものを参考にしながら学力を高めるということで頑張っていきたいと、このように思っております。

○議長（井原正光君） 5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） 最後は町長にお聞きしたいと思います。

私が先ほど来、人づくり、教育によるまちづくり、町の活性化というものを教育委員会、教育長に求めて、さまざまな提案をいたしました。町長としてはこの町の活性化に教育がかなり大きなポジション、ウエートを占めていると思いますが、その辺についていかがお考えなのかお聞かせください。

○議長（井原正光君） 守谷議員に申し上げますが、今回のあなたの質問は教育委員会についてということでございますので、質問の趣旨から離れております。

5番守谷貞明君。

○5番（守谷貞明君） それでは、お答えは多分僕が想像するに、いやそれはぜひ精力的に進めて、教育による町おこしをどんどんやっていただきたいというのが、多分町長のご本心だと思います。僕はそういうふうに推測します。

そこで最後に、くどいようですが、ぜひ一度でもいいから、茨城県の、10年後にはトップテンに入るんだ、大ぶろしきを伊藤教育長に広げていただきたいのですけれども、そんなことができますでしょうか。

私は、1回掲げてしまえば、もう引くに引けないから、やるしかないのですよ。がけから飛び降りるようなつもりで、そのぐらいのことを一度おっしゃっていただくと大変ありがたいと思うのですが、いかがでございますか。これで最後です。

○議長（井原正光君） 教育長伊藤孝生君。

○教育長（伊藤孝生君） 先ほどから3回言っていると思うのですが、日本一を目指す私の施策がありますので、15分かかりますので、ぜひそれを話させていただきたいなと思っております。

ただ、今まで守谷議員の言っていることもごもっともですので、大いに参考にして今後の教育に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（井原正光君） 守谷貞明君の質問が終わりました。

○議長（井原正光君） 日程第2、休会の件を議題とします。

お諮りいたします。

あす6月8日から6月9日までの2日間は、議案調査のため休会にしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井原正光君） 異議なしと認めます。したがって、あす6月8日から6月9日までの2日間は、議案調査のため休会とすることに決定いたしました。

○議長（井原正光君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次回6月10日は午前10時から本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後1時59分散会